



# 地域支援センター「みみらんど・郡山」

## 令和5年度 第3回きこえとことばの基本研修会

テーマ 「言語・発音指導」

講師 福島県総合療育センター 言語聴覚士 山田奈保子 氏

8月23日(水)、第3回きこえとことばの基本研修会を開催しました。今回は、訓練の様子動画に基づいた説明や、聞き取りの演習を通して、「聞こえにくさと日本語の関係」「聴覚的サンドイッチ」などについて学びました。

<指導に入る前段階として、確認・理解しておくこと>

- ・子どもの傾聴姿勢が育っているか。
- ・オーディオグラムのスピーチバナナ(会話音域)の中に補聴器の装用閾値が入っているかどうか。
- ・聴覚障がい児の多くが生活年齢よりも語彙年齢が2年以上遅れている。  
【\*戦略研究の結果より】
- ・難聴児は学齢期に習得されるべき日本語構文理解に著しい遅れが見られ、学習上の大きな妨げになっている。  
【\*戦略研究の結果より】



<言語指導と発音指導>

- ・LING6 (/a/, /u/, /i/, /s/, /sh/, /m/)の音に気づき、模倣しているか。音が届いているか。
- ・言葉のシャワーを浴びるためには、家庭で会話と語りかけが重要。保護者が言語指導できるように専門的な指導が必要な場合もあるが、保護者ができることを見極めて伝える。
- ・LENA (Language Environment Analysis;主に乳幼児を対象とした周囲の音声言語環境を録音・解析する統合情報処理ソフトウェア)により、家庭内での保護者の語り掛けややりとりを可視化することで、意味のある語り掛けが子どもの発話数と相関が高いことが分かった。
- ・①聴く→②見る→③聴くの「聴覚的サンドイッチ」のはたらきかけにより、脳の聴覚野を発達させる。  
例) ①「見て!ねこがいる。」(聴く)→②ねこを指す(見る)→③「ほら!ねこがいたね。」(聴く)  
①「バイバイ」(聴く)→手を振る(見る)→「バイバイ」(聴く)  
※名前を呼ぶ際は肩を叩かない。「聴いて!!」と耳を指し、聴く姿勢を作る。



<実際の訓練の動画視聴による演習>

- ・動物たちが物々交換をする物語を聞き取る訓練の場面では、「話を聴く」「理解する」「覚える」「質問に答える」一連の流れにより、聞こえの学習過程を体験しました。
- ・絵本に描かれた動物の位置や特徴を答える訓練の場面では、「辞書を引いたように言葉の意味を伝えるのではなく、文章の中に入れて説明させるようにする。お子さんが好きな恐竜の特徴を動作により伝える様子に対して相槌を打つかかわりでは、言語を介していないことになる。構文の見本を増やし、復唱させることが大切。」ということを教えてくださいました。

<参加者の感想>

- ・語彙を増やすためには、1つの言葉を色々な方法で理解をつなげていくことが大切だと感じました。
- ・学びの段階をしっかりとらえた上で、最適な課題を設定すること、日常的な関わりの中でも十分に課題が意識できるよう家庭にもできることから働きかけていくことの大切さが分かりました。
- ・まずは検査結果を見直すこと、傾聴の態度、音への気づき、模倣など子どもの姿を見直すことをしたいと思いました。

